

https://www.kikokusha-center.or.jp/shien_joho/shingaku/kokonyushi/kokonyushi_top.htm

本交流会は発足10年を超え、その目的が、“情報の共有”から“格差是正の提案”に変わりつつあります。これまでの成果として見える化できた、ガイダンス活動における地域格差や、高校入試制度における自治体差を、全国的な改善に

つなげる必要があるからです。それを象徴するものとして、交流会の最後には、「全国の自治体および教育委員会に対する提案」、「国に対する提案」の2つの提言が発表されました。ますます多様化が進む中、すべての子どもに等しく教育が保障される社会の実現を目指し、これからも微力ながら関わり続けたいと感じた交流会でした。

多言語による高校進学ガイダンスを振り返って



宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターコーディネーター

鄭安君

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター HANDS 事業の代表的行事の一つである多言語による高校進学ガイダンスは、今年度で10年目を迎えた。今年度では、下野新聞社主催ガイダンスへの参加および栃木市教育委員会との

共催の形で下記の3回の開催を企画した。うち、10月12日の栃木市教育委員会との共催ガイダンスは台風19号の上陸で中止となったため、本報告は下野新聞社主催への参加ガイダンスについてまとめる。

2019年多言語による高校進学ガイダンス

	ガイダンス名称	開催団体等	期日・会場	参加者数	対応言語（通訳）
1	栃木県高等学校進学フェア (多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/16 マロニエプラザ (宇都宮会場)	16人	英語、ポルトガル語、 フィリピン語、中国語、 タイ語、ベトナム語、 スペイン語
2	栃木県高等学校進学フェア (多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/23 栃木文化会館 (栃木会場)	16人	英語、ポルトガル語、 フィリピン語、中国語、 ベトナム語、スペイン語
3	子どもたちの明日を 考えるつどい～多言語 による進学・学校 生活ガイダンス～	栃木市教育委員会と共催	10/12 栃木市役所	18人 (予定) 台風で中止	英語、モンゴル語、 ネパール語、フィリピン語、 スペイン語

※参加者数は、ガイダンスに参加した児童生徒の人数である。

下野新聞社主催栃木県高等学校進学フェアへの参加の形で開催した多言語による高校進学ガイダンスは昨年度からスタートしたものである。

昨年度は宇都宮会場のみで行ったが、今年度は宇都宮会場と栃木会場の2回開催となった。

今年度のガイダンスでは、昨年度と異なり、

中学校の生徒および保護者だけではなく、小学校の中高学年の児童および保護者をも対象にした。その理由は、これまでの研究活動および実践活動を通して、日本の教育制度に不慣れの外国人保護者がより早い段階で日本の学校制度への理解および進学に関する情報収集が必要であると把握したためである。

対象者の拡大を周知するため、各自治体の教育委員会を通して、ガイダンスの開催情報を小中学校に発信したほか、HANDS事業の担当教員は教育委員会の紹介で外国人児童生徒の多い県内小中学校25校を8月～9月にかけて集中的に訪問し、趣旨の説明や情報の提供とともに教育現場での外国人児童生徒の学習や進学についても意見交換をした。

ガイダンス当日では、日本語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、英語の8言語の資料が用意されたほか、言語ごとにブースが設置されて、小中学校の教職員および通訳者とともに参加者の相談に応じた。通訳者の確保の関係で、参加は事前申し込み制であるが、数件の飛び入り参加をも受け付けた。また、会場の案内を見て、友人や知り合いのための問い合わせも数件あった。そして、小中学校への事前訪問もあって、数名の小中学校の教員が所属校の児童生徒の参加確認で会場に訪れた。参加者にはガイダンス開催時間内に自由に来ていただき、基本的に個別相談の形で進行した。

参加者の国籍が最も多いのはフィリピンの9人で、次いで日本6人、ペルー5人、中国4人、ブラジル・ボリビア・ベトナム各2人、パキスタン・ウクライナ各1人である。日本国籍の児童生徒は、帰国子女や帰化者、そして両親の1人が外国ルートであると見られる。国籍に関係なく、多言語による高校進学ガイダンスの必要性を再確認できた。また、小学5～6年生の児童が5人参加し、



児童および保護者が熱心に情報を聞き入っていることから、小学校の中高学年の児童および保護者をガイダンスの対象者にする必要性をも再確認できた。

各相談に対して、日本の学校制度、公立高校および私立高校の概況、学費の概算、奨学金制度の存在、そして入試の日程概要などの基本的な説明を行った。また、参加者の需要に応じて、学校での学びや進学についてのアドバイスも行った。そして、学校での学びにサポートが必要な児童生徒に対して、当センターが行っている学習支援の学生ボランティア派遣をも紹介した。後日、実際の学生ボランティア派遣も始まった。多言語による高校進学ガイダンスは、情報の提供だけではなく、より包括的な支援に繋ぐ場としての役割も担っている。

近年、栃木県内では、多言語による高校進学ガイダンスの開催の必要性について認識が拡大していると思われる。当センターは自治体のガイダンスの必要に応じて、資料等の共有や協力を行いたいと考えている。多言語による高校進学ガイダンスは開催の周知、参加申し込み者の会場案内や参加確認、円滑な会場運営など、様々な改善点があるが、今後はより広い連携での開催を試み、更なる多様な支援に繋ぐ役割を果たすことを目指したい。